

2016 年合格目標 外務専門職講座

再チャレンジ応援セミナー

担当：外務専門職講座担任講師 中尾大志

【本日の内容】

1. 今年の本試験の講評
2. なぜ不合格になったのか？
3. 再チャレンジをするにあたって

1. 今年の本試験の講評

(1) 専門科目

- 問題レベルは標準。ただ、憲法第 3 問、国際法第 1 問、経済学第 2 問はやや難しかった。
- どの科目も選択した問題 2 問のうち、1 問完答+1 問半完であれば、及第点に達したと考えられる。

(2) 基礎能力試験

- ボーダーは 18 点。
- 全体としては標準レベルの出題で、25～28 点は得点可能。30 点以上の 1 次合格者もいた。

(3) 時事論文

- 昨年と同様に、国内問題からの出題であったが、日頃から新聞等をチェックしていれば、対応可能。

(4) 外国語

- 英語（和訳）については、標準レベルに戻った。外国語訳（全言語共通）についても、標準レベルの出題と言え、日頃の学習の成果が反映されやすい問題であった。

2. なぜ不合格になったのか？

【不合格の要因①—1 次試験—】

- 専門科目に弱点はなかったか？
⇒外専では、「特別得意な科目」を作る必要はない。むしろ、「苦手な科目」をなくし、どの科目でも平均点以上を安定してとれる実力が必要。
⇒そのためには、各科目の「基礎力」の養成が必須。
- 基礎能力試験対策において、知能分野のみに特化して、人文・自然・社会科学の対策を捨ててはいなかったか？
⇒知能分野から 27 問（約 67%）出題されるが、数的処理が難しい問題では、知識分野でどれだけ点数を上乗せできるかが勝負の分かれ目となる。
⇒もはや「文系出身だから」、「理系出身だから」などという言い訳は通用しない。合格点をとるためには、すべての科目を一通り勉強して、「得点のパイ」を広げる必要がある。
- 論文答練の時期（2 月～5 月）でもコツコツと外国語試験対策をしてきたか？
⇒論文答練の時期になると、専門科目の対策に特化した勉強をしてしまう傾向がある。しかし、この 4 か月は外国語試験対策においても重要な時期である。
⇒論文答練の時期に 1 日 1 時間でも外国語対策をしてきたか否かで、1 次試験の出来は大きく変わってくる。

【不合格の要因②—2 次試験—】

- 1 次試験の得点が不足していなかったか？
⇒人物試験に 5/12 の配点があるが、1 次試験では総得点の 1/2 の配点があることを忘れてはならない。
⇒「人物試験で大逆転」という戦略はリスクが高い。手堅く合格を狙うのであれば、1 次試験でなるべく高い成績を残すことが重要。
- 自分の適性をきちんと見極めていたか？
⇒外務専門職試験では、受験生のキャラクターと志望言語・地域・分野が大きく関係している。自分のキャラクターに合った志望動機を持っていたか？

3. 再チャレンジをするにあたって

(1) 再チャレンジの注意点

- 単なる「リベンジ」で受験してはならない。「自分にとって本当に目指すべき職業なのか？」をよく考えること。
- 再チャレンジに向けて、「どれほどの勉強時間の中で、どれだけ『真剣に』勉強に打ち込めるか？」をよく考えること。

(2) 再チャレンジを決意したら…

- どの講座を受講すべきかを良く考えること。
- 受講計画をよく考えて、戦略的に受験勉強に取り組むこと。

【注意点】

外務専門職講座では、「〇〇本科生」というコースを受講されている方のみ、担任講師のカウンセリングやTAC内での自主ゼミ、2次試験の人物試験対策等を受けることができます。「バック生」や「単科生」では、これらのコンテンツを受けることができませんので、ご注意ください。